

日本ソーシャルワーカー協会主催 第15回 福祉問題の検証シリーズ開催要綱

介護現場の専門性をめぐる課題と今後の方向性

～ 求められるソーシャルワーク機能とそのあり方を考える ～

介護施設の現場では、若者の介護職離れや離職、転職などによる人手不足が叫ばれる一方で、専門家養成の場としての専門的・教育的な役割も求められるようになってきた。しかし、現場が人手不足や多忙さ、負担増加の状況に直面する中では、身体的・物理的な支援のみに関心が向けられがちであり、同じ業務を繰り返すことで業務がルーティン化するなどの問題が生じる可能性がある。これは、かつて医療現場で指摘された「病気を見て人を見ない」と同様の構造に陥る危険性を否定できない。

本検証シリーズでは、施設での介護が入居者一人ひとりの身体面や精神面、個人の権利や尊厳、スピリチュアリティといった人間生活のあらゆる側面に関係し、影響を及ぼす重要な業務であることを再認識する。そして、専門的立場から介護業務に求められる専門性や、現場に潜む課題の構造を明らかにし、近年福祉現場に取り入れられつつあるソーシャルワークの機能や視点の導入の必要や将来のあり方について考察を加える。本取り組みが介護現場の充実と向上に寄与することを期待したい。

1. 主催：特定非営利活動法人 日本ソーシャルワーカー協会

2. 後援：(予定、法人格省略、順不同)

日本介護福祉士会、日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、日本医療ソーシャルワーカー協会、日本介護福祉士養成施設協会、全国老人福祉施設協議会、東京都社会福祉協議会

3. 日時：2025年3月20日(木・祝) 13:30～16:00

4. 内容：トークセッション 進行：松永千恵子(本協会理事、群馬医療福祉大学)

<前半：13:30～14:55、開会5分、各発言者20分>

発言者1：保良 昌徳(本協会会長、おきなわ長寿苑施設長、コーディネーター)

「問題提起、介護の専門性と施設の有する影響力について」

発言者2：及川 ゆりこ(日本介護福祉士会会長)

「介護従事者・支援団体の立場から見る、介護現場の課題と展望」

発言者3：小長谷 恭史(和歌山社会福祉専門学校非常勤講師、本協会会員)

「介護福祉士養成施設(外国人留学生を送り出す立場)から、介護現場に期待するもの」

発言者4：佐々木 隆志(東京福祉大学大学院特任教授、本協会会員)

「介護政策・制度の観点から見た介護現場の将来像」

<後半：15:00～15:55 討論・質疑>

討論・質疑ほか

5. 対象：本協会・日本ソーシャルワーカー連盟会員、社会福祉事業経営者・施設長、介護現場に携わる管理職及び介護従事者、福祉教育現場の教職員・研究者・学生、社会福祉業務及びその専門性に興味のある方

6. 開催の方法：オンライン方式

7. 定員：50名を予定(定員に達し次第締め切らせていただきます)

8. 参加費：本協会・JFSW会員2,000円 非会員3,000円 学生1,000円

9. 申し込み・参加費支払いの方法

右のQRコードからPeatixに移動、申し込みと支払いができます。

※一度納入された参加費の返金は、お断りさせていただきます。

締め切り：2025年3月18日(火)



10. 問い合わせ先：日本ソーシャルワーカー協会事務局(月・水・金、10:00～17:00)

住所：〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町3番7号 森山ビル西館4階401号室

電話：03-5913-8871

FAX：03-5913-8872

メール：jasw@jasw.jp